



最優秀賞

息子へ

愛知県春日井市 伊藤 弘子

小学1年の時に父親と別れた貴方は、結婚になかなか踏み切れず、父親になる決心もつかないと
言ったことがありましたね。「父親のモデルがないから、どんな父親になったらいいのかわから
ない」と。でも三年前に結婚し、三十六才になる直前の去年、父親になりました。赤ちゃんを
見がてら出産後の手伝いのため、貴方達の家初めて行った私は、貴方の素晴らしい父親ぶりに目
を見張りました。深夜帰宅しても、赤ちゃんが泣けば弾けたように飛び起き、泣き止まなければ
しばらく妻と共に寄り添い、朝は遅めの出勤とはいえ、風呂に入れミルクを飲ませおむつも替え
る。それをごく自然にやりましたね。二人で育児をしたいと奥さんは言ってたし、貴方達には
何のこだわりもありませんでした。時代が変わったのでしょうか。長時間労働が改善されれば、
男性ももっと自然に育児に参加できるでしょう。貴方がいい父親になっていることに驚き、そし
て安心した私でした。

優秀賞

夫へ

大阪府四條畷市 千葉 昌美

結婚して五年目になりますね。子供も二人生まれ、賑やかな家庭になりました。

私は今、二度目の育児休暇の真っ最中です。こんなに長い休暇は、これが最後でしょう。

あなたと結婚した時、五年務めた職場を辞めました。住む場所も職場も変わり、ストレスではありましたが、あなたと一緒にいたから乗り越えられたと思います。

今こうして育児休暇を取り、育児に専念できることをうれしく思っています。

理解ある職場と、私の仕事を認めてくれているあなたにとっても感謝しています。

でも、忘れないでください。本当は大好きな仕事を休みたいくないというのを。職場が変わるのも、休みを取るのもいつも女性で、なんとなく、幸せの後ろに我慢があるのです。

けれど、結婚も出産も大きな喜びで、決して、イヤな我慢ではないことも、事実です。

この不公平な幸せが、これから先家族四人の幸せとなるよう、一緒にがんばりましょうね。

優秀賞

夫そして父親としての息子へ

福岡県福岡市 有馬 秀一

数年ぶりに逢ったオマエを見て驚いた。その落ち着きもさることながら、望まれる夫そして父親の姿を目のあたりにしたから。育児に加えて諸々の家事。それらを夫婦で協調協力し合うことは不可欠のことだ。私にはできなかった。理屈では分かっている。

久しぶりに酒を酌み交わしても話にハナがさいてもオマエの気持の一部は常に家族に向けられていたネ。幼子の微かな変化も見逃さずサツとおむつ替えする手際の良さ！ぐずる子供をあやす妻に飲食させようと無言で妻から子供を抱きあげるカッコ良さ！聞けば家事も積極的に協力しているそうではないか。『荒っぽくてやり直しが多いですけど、でも本当に助かります。だから安心して子供三人産めました』と笑いながら彼女は言ったよ。嬉しそうだった。幸せそうでもあった。

そうでなきやいけないよな。人真似は嫌いな私だがオマエを真似てやってみようかな。



佳作

父へ

東京都品川区 船越 浩明

「お前の家、変だよ。父ちゃんが主婦みたいでさ——いつも友達にからかわれた。でもね、父さん。私、自信があつたんだよ。これが「わが家のやり方」なんだ！って。家業の染織の仕事には休日がなかった。母さんが工房に入る時期は、父さんが子供達のお弁当作ったり、家の事を上手に切り盛りした。二人の創る染織の作品のように、言葉はなくても暖かい心は届いていたよ。けど今思う。父さんは典型的な昭和の男性。だから、田舎の古い環境ふるの中で周囲の言葉が気になっていたかも知れないって…。私は大人になってファッションの仕事に就いた。職場は、男女共に新しい感性でものを創造しようという夢ある人間の集まりです。父さんが教えてくれた事はここで役に立っている。幸せと思う事を一生懸命やって生きる。それが自然な事だよ。父さんの生き方。カッコ良さ。やっとなかつかって来たよ。

夫へ

愛知県豊田市 塚本 英子

あなたの姿を見ると「この世に無理なんてない。」と思えてくる。定年目前で長年勤めた会社を退社。懸命に痴呆症の

母の介護をしているあなた。「頑固一徹な父ちゃんが、介護なんて、できるわけない。」出た息子や娘が口々にそう言ったが、あなたの意志は、全く揺るがなかった。「母ちゃんは俺を産んでくれた母ちゃんだ。だから、俺がみる。」そう言い放った後、あなたは、口をキュツと引き締めた。責任感、それとも強い意志がそうさせたのか…。でも、無理は禁物。一人で背負うには、あまりに介護は重すぎる。そんな時は、微力ながら、手伝わせてね。今日は、日溜りの中で母の歯磨きをしていたあなた。たまたま来ていた子供達が、帰り際、こんな事を言っていましたよ。「うちの父ちゃんて、かつこいいな。」優しい背中から何かを学び取ったようです。

夫へ

三重県伊勢市 山田 玉子

愛する作郎様、やっとな私は定年退職をして家の中のことをまともにできるようにしました。今までは自分が勤める学校の生徒を第一に考え、あなたを第二にして、誠に申し訳なく思っています。これから、今まで支えてくれた大きな借りを、少しずつ、お返し致します。あなたは、今まで、帰りの遅い私のため、食事作りの協力を限りなくして、助けてくれました。

男でも、食事作り、子育て、洗濯物の取りこみを協力してくれましたね。四十年間、共に働き、今、二人共、定年退職し、

時間に余裕ができましたね。近所の人や、親兄弟に笑われても、あなたは、妻に協力を惜しまなかった男性でした。そのお蔭で、今日の私があります。教師として四十年間も幸せに生きてきました。かわいい生徒も、我が子も、力一杯、愛することができました。今こそ、老夫を大切に致しますから。

夫へ

大阪府大阪市 上田 弘子

眠っているのは死んでいるのと同じことなのだから、もう少し目を開けていて、と心の中で繰り返し呼びかけるけれども、お茶碗を洗う手を止めて振り向くと、今日もやっぱりあなたは船を漕いでいる。職場が難しくなるとともに、いつのまにかできた眉間の深い皺がテーブルの上の電灯に光っていて、そんなあなたに声をかけて起こすことは、わたしには決してできない。ロクが階段でずっこけたんだよ、十二歳の老犬だもの無理もないよね、今年はクリームのミニバラに三十五もつぼみがついている、そうそう三十五といえ、わたしとこの店の惣菜主任にやっと彼女ができて、ご機嫌だからこつちも助かっているの。一日貯めていたことばの数々が、くしゃくしゃになってわたしの頭の中にひしめく。けれど、今夜もきちんとアイロン

をかけてしまっておくんだ。明日の朝、あなたが出かけるまでの束の間の時間、それを忘れず取り出せるように。

かつての妻ビクトリアへ

兵庫県加古川市 小林 和夫

君はもう日本語を忘れてしまったのではないだろうか？東ヨーロッパ、モルドバ共和国のビクトリア。二千年七月から二千年五月まで私の妻だった君は今もパワフルに大陸を駆けめぐりながら働いているとき。私は当時四十七才、君は二十五才。みんなから羨望と中傷の的になった。顔はバードマンに似て、スタイルは新体操のオリンピック候補でもあったから超スリム、性格はジャンヌ・ダルクのようだった。お金のためにダンサーの仕事をしているが、ゆくゆくは日本の新体操のコーチになりたいと常に言っていた。ボランティアで日本の高校生に教えるため、全国いろんな場所に行った。じつと家にこもることを嫌った。入国管理事務所の特別在留許可の調査で、「妻はじつと家においてこそ妻」の発言を噛わらい、「男女平等発展途上国」というドンピシャの言葉を残して本国へ帰ってしまった。だから私は思う、「恋のマイハヒ」は私たちのための歌ではないかと